

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520318

研究課題名（和文）

朝鮮総督府の言語政策と言語教育が現代韓国語の形成に及ぼした影響に関する実証的研究

研究課題名（英文） A study on the influence of the language policy and education of the Japanese government-general of Chosun(朝鮮) on the modern Korean language

研究代表者

陳 南澤 (JIN NAMTAEK)

岡山大学・外国語教育センター・准教授

研究者番号：00403478

研究成果の概要（和文）：

本研究では朝鮮総督府の言語政策及び当時の言語教育が現代韓国語の形成に及ぼした影響を正書法を中心にコーパスを用いて分析する。

- (1) 1890 年代～1945 年代の文献のコーパスの分析を通して実証的に検討し、現代韓国語の正書法の確立過程を明らかにする。
- (2) 日本植民地期の韓国の言語政策と教育を担当していた朝鮮総督府の学務局により定められた「普通学校用諺文綴字法」（1912 年）などの規定が韓国語の正書法の形成に及ぼした影響を分析する。

研究成果の概要（英文）：

The aim of this study is to clarify the influence of the Korean language policy and education of the Japanese Government-General of Chosen(朝鮮) on the formation of modern Korean focused on the spelling system of Korean using corpus analysis.

- (1) From the empirical analysis of the Korean corpus during the period between the 1890s to the 1940s, the process of the establishment of the spelling system of the Korean language is clarified.
- (2) Investigation of the influence of the spelling rules of the Japanese Government-General of Chosen in 1912 on the spelling system of the Korean language is also conducted.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合 計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総 計	3,300,000	630,000	3,930,000

研究分野：言語学、韓国語学
科研費の分科・細目：言語学・外国語教育
キーワード：韓国語、言語政策、朝鮮総督府、コーパス

1. 研究開始当初の背景

現代韓国語の形成には、19世紀の近代韓国語の基盤の上に新しい語彙及び文体の普及(西洋宣教師によるハングル聖書の普及及び日本語の影響など)そして韓国語を整えようとする韓国人の努力等が影響を及ぼした。なお、日本植民地時代の朝鮮総督府の言語政策及び言語教育(朝鮮語教育と日本語教育)が及ぼした影響も小さくないことは周知の事実である。

本研究では、言語変化の要因としての言語政策と教育の役割について韓国語コーパスを用いて明らかにしようとするが、本研究のためには膨大な量のコーパスが必要である。最近ようやくその環境が整ってきて、コーパスによる研究が可能になり、これからの研究が必要な分野である。

また、韓国での研究では韓国人の先覚者の活動と業績に焦点を置く研究が多く見られるが、多くの韓国語コーパスから綴字法の変遷過程を探り、言語政策との関連性を実証的に確かめることも必要である。

本研究を通して、現代韓国語の形成過程の重要な部分が明らかになると期待され、さらに朝鮮総督府の言語政策と言語教育が及ぼした影響の実態も正確に究明できると考える。

2. 研究の目的

本研究では朝鮮総督府の言語政策及び当時の言語教育が現代韓国語の形成に及ぼした影響を1890年-1945年代の文献のコーパスの分析を通して実証的に検討し、現代韓国語の形成過程を明らかにすることを目的とする。なお、言語政策と教育を担当していた朝鮮総督府学務局の文書資料を発掘し、当時の朝鮮語教育の実態とその影響、言語政策の決定過程(言語政策の決定における韓国人学者の役割も含めて調査)とその成果なども考察する。

3. 研究の方法

現代韓国語の形成過程を明らかにするためには、音声・音韻の変遷過程の究明とともに、語彙及び文体の変遷過程をも明らかにする必要があるが、本研究では音声・音韻の変遷とそれに関わる綴字法の問題に重点をおく。最

近韓国では言語資料のデータベース（コーパス）化が進み、本研究に係わる開化期（19世紀末～20世紀始め）や日本植民地時代の新聞・雑誌及び小説などの韓国語コーパスも多く利用できるようになった。本研究では、各々の時期（① 開花期、② 1910年代、③ 1920年代、④ 1930年代～1945年）の文献における綴字法の実態をこれらのコーパスから分野別（例えば、新聞の綴字法と小説の綴字法）に4年にわたり量的に分析した。さらに、朝鮮総督府による朝鮮語綴字法規定（即ち「普通学校用諺文綴字法」（1912年）、「普通学校用諺文綴字法大要」（1921年）、「諺文綴字法」（1930年））及び実際に学校で使われていたこれらの規定が反映された朝鮮語教科書の綴字法の実態について韓国語コーパスに現れる綴字法を分析した結果との相関性の観点から究明する。

4. 研究成果

本研究では、朝鮮総督府資料の発掘と確認作業と開化期から1930年代における韓国語コーパスの分析を行なった。

(1) 開化期（19世紀末～20世紀始め）における韓国語の綴字法と日本の植民地初期の韓国語の綴字法の実態に関しては、キリスト教文書の『新約全書』（1900）と『演經座談』（1923）におけるハングル綴字法を計量的に分析し、当時の韓国のハングル綴字法に大きな影響を及ぼしていたキリスト教文書のハングル綴字法の実態が分かった。朝鮮総督府の「普通学校用諺文綴字法」（1912年）は、キリスト教文書のハングル綴字法より、幾つか進んでいる点もみられるが、その適用範囲には限度があり、キリスト教の文書には聖書綴字法と呼ばれる綴字法が使われ、『新約全書』（1900）

と『演經座談』（1923）のハングル綴字法は「普通学校用諺文綴字法」（1912年）の規定とは異なる点が多いことが分かった。

(2) また、韓国語で発刊されたキリスト教の雑誌である『神学月報』（1900-1909）におけるハングル綴字法を分析した。『神学月報』は「・」や口蓋音の表記などでキリスト教文献におけるハングル綴字法の変遷過程をよく表している。このような表記法は朝鮮総督府の「普通学校用諺文綴字法」（1912年）の制定にも影響を及ぼしたと考えられる。

(3) その他、1898年から発行された「毎日新聞」と1907年から発行された「京郷新聞」、また京郷新聞の付録として発行された「寶鑑」の分析を通して、当時の韓国の新聞は全般的に伝統的・慣習的な表記法に従っていることが分かった。

今後、19世紀後半からの開化期と日本の植民地時代における韓国語の音声・音韻・語彙・文体などの変化を分析・検証し、朝鮮総督府の言語政策と言語教育と照らしながら現代韓国語の形成過程を明らかにするとともに、朝鮮総督府の教科書をはじめ、新聞・雑誌・小説などのコーパスをジャンル別・時代別に網羅的に分析し、新たな語彙・文体などの定着過程を実証的に究明する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計4件）

- ① 陳南澤、韓国の開化期新聞におけるハングル綴字法について、大学教育研究紀要、査読無、第5号、2009、pp.67-78
- ② 陳南澤、韓国語の音韻史における混記について—朝鮮資料の分析を通して—、朝

鮮語史研究、東京外国語大学アジア・ア
フリカ言語文化研究所、査読無、2009、
pp.53－61

- ③ 陳南澤、『神学月報』(1900-1909)のハン
グル綴字法について、大学教育研究紀要、
査読無、第4号、2008、pp.65－73

- ④ 陳南澤、キリスト教文書のハングル綴字
法と朝鮮総督府のハングル綴字法規定、
大学教育研究紀要、査読無、第2号、2006、
pp.63－71

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

陳 南澤 (JIN NAMTaek)
岡山大学・外国語教育センター・准教授
研究者番号：00403478

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者